

アラスカへの思い

星野直子

夫、星野道夫の学生時代、北海道の自然に強く魅かれていた彼は、通学の電車で揺られている時、ふっと北海道のヒグマが頭をかすめたのでした。自分が東京で暮らしている同じ瞬間に、同じ日本のどこかの山で一頭のヒグマが倒木を乗り越えながら力強く大地を踏みしめている……。そのことが不思議でならなかったのです。

やがて北海道への憧れはアラスカへとつながっていきます。大学生の時に親友を亡くし、人の一生の短さを知り、自分の残された時間の中で、本当に好きなことをやっいてこうと、アラスカで写真を撮る道を決めました。

アラスカに渡って写真を撮り始めた頃には、5年間位でアラスカをまとめ、その後は別のテーマで他の場所を撮影しようと考えていたようです。しかし5年が過ぎ振り返ってみると、自分はアラスカという大きなテーマのほんの入口に入ったばかりで、十分に撮影ができていないことに気がきました。カメラとザックを担ぎ、一年の半分近くをテントで過ごし、たくさんの風景・野生動物と出会うことで、又、その旅の中で多くのアラスカに暮らす人々と出会い、親交を深める毎に、アラスカというテーマは、より深くなっていき、一生を賭けるものとなりました。



アラスカにて 2011年春

結婚後短い期間でしたが撮影に同行し、フィールドでの時間を共に過ごすことで、夫がいかにフィールドで過ごす時間を大切に楽しんでいたか、そして撮影するためにどれほど長い時間待つのかということに気付かされました。動物たちがありのままの自然な姿で撮られている写真の裏には、長い時間と、その対象に対する深い思いがあったのです。

又、夫は写真を撮りながら、自分が見ているこの風景を誰かに見せてあげたい、そんな思いも強く持っていました。「自分の撮影した写真を見た人や、書いた文章を読んでくれた人を、一人でも励ますことができればいいな」と話してもいました。

夫には若い人へ伝えたい二つのメッセージがありました。一つはなるべく早い時期に、人間の人生がいかに短いものかを感じとってほしいということ。もう一つは好きなことに出会ったらそれを大切にしてほしいということです。

このメッセージが、これから様々な人生の岐路に立つ時に、新しい道を歩むためのきっかけの一つにつながれば幸いに思います。